

鈴木有郷牧師説教

7/25/10「祈りを教えてください」 ルカ11:1-13

イエスの弟子達は祈ることを知っていました。ガリラヤ地方で育った敬虔なユダヤ人だった彼らが、祈る時には両手を挙げて天を仰ぐか、体を地に伏せ、顔を地面につけるかを知らなかった筈はありません。

ですから、彼らがイエスに向かって「祈りを教えてください」と頼んだのは、祈りの仕方について尋ねたのではなかったのです。彼らの質問は、「何を祈ったらいいのでしょうか」という意味だったのです。

イエスの答えは明快です。それは5つの点に要約できるものでした。

一つ。「父よ、あなたがどういう方であるかを常に私たちに示してください。」つまり、信仰を深め、神により頼む心を与えてください、というものです。

二つ目。「この世界を正しいものへと導いてください。」つまり、この困難と問題に満ちた世界に対してあなたの慈しみを明らかにしてください、というものです。

三つ目。「私たちの生活に必要な糧を与えてください。」つまり、お腹の空いている人に十分な食料を与えてください、というものです。

四つ目。「私たちは私たちに負い目のある人を赦しますから、私たちの負い目を赦してください。」つまり、赦しと慈しみが私たちの生活を方向付けるように導いてください、というものです。

そして、最後に五つ目。「すべての危険から私たちを守ってください。」つまり、戦争や復讐心や憎しみや嫉妬から解放してください、というものです。

私たちは何を祈ったらいいのでしょうか。イエスの答えは明快です。信仰が深まるように、世界に正義が打ち立てられるように、そして赦しと慈しみがあなたたちの人生を基礎づけるように祈りなさい、というものです。

その上で主イエスは言われます。熱心に祈り続けなさい。求め続けなさい。探し続けなさい。扉を叩き続けなさい。

何故なら、神は絶対に私たちの祈りを無視されることはないからです。必ずお答えになるからです。神は私たちが必要としているものを必ずお与えになるからです。

これ程私たちに慰めになる言葉もないでしょう。しかし、この主イエスの言葉を自分たちに都合のいいように、勝手に解釈してはなりません。祈れば、私たちの私利私欲や復讐心に満足があたえられるというのではないのです。

私たちは、信仰と正義と赦しの心を祈るのです。そのこととの関連で、以下の主イエスの言葉は重要です。「天の父は祈る者に聖霊をお与えになる。」

つまり、あなたがたは何でも祈りなさい。神の聖霊が、あなたがたの祈りを正しいものに変えてくださる、というのです。

神の答えは私たちが期待したものと違うかもしれません。私たちが欲しくないものかもしれません。

十字架にかかる前夜、ゲッセマネの園で主イエスは血の汗を流しながら、祈りました。「どうかこの杯を私から取りのけてください。」しかし、と主イエスは続けました。「私の思いではなく、あなたの思いが成りますように。」

聖霊は、「この杯を私から取りのけてください」を「しかし私の思いではなく、あなたの思いが成りますように」へと変えたのです。

天の父は私たちよりも、私たちが何を必要としているかをよく知っておられます。それが証拠に、2000年前、ユダヤの民はダビデ王の再来を期待していました。周りの諸国を制圧して、あの栄華と栄光を再び彼らに与えてくれる権力者としての救い主を求めていました。

しかし、神が彼らに与えられた救い主は、権力者とは全く異なる平和の君であり、善き羊飼いであるイエス・キリストでした。

ですから、祈り続けようではありませんか。求め続けようではありませんか。探し続けようではありませんか。扉を叩き続けようではありませんか。神は聖霊をもって、私たちの祈りを「私の思いではなく、あなたの思いが成りますように」という祈りへと変えてくださるに違いありません。

神は私たちの祈りを必ず聞き届けたまう。これ程の慰めがあるでしょうか。